令和３年度
第５回教育委員会（定例）
報告８　別冊４
令和３年７月28日(水)

丹波篠山市中高連携事業の取組について

丹波篠山市教育委員会

市内の中学生が市外の高校への進学を希望する割合が増加傾向で、市内の３高等学校においては入学希望者が募集定員に満たない事象が生じている。
現下の状況に対し、市内の中学校・高等学校・市・市教育委員会が連携し以下の取組を展開している。

１．現在までに行った対応

課題の共通認識や減少にかかる原因把握、対応策を検討するために「丹波篠山市中高連絡会（以下「連絡会」)」を設け、中高の校長及び教育長ほか市教育委員会職員で意見交換を行っている。

丹波篠山市中高連絡会(第1回)　R3.5.13　課題の共有と対応策の提案
〃　　(第2回)　　7.09　今後の取り組み検討

(1) 連絡会での意見、提案

【高校への提案】

・強み、魅力の発信に注力する（魅力的な取り組みが周知できていない）
・中学生へ働きかけるタイミングを大切にする（２年生の冬から３年生の夏まで頻繁に）
・中学校を訪問しＰＲや情報収集を行う
・中学校出身の先輩からの情報は影響が大きい　　など

【中学校ができること】

・高校への情報提供
・学校訪問の受け入れ
・オープンハイスクール参加の斡旋　　など

【市ができること】

・広報丹波篠山やＨＰ等で高校のＰＲ
・緊急事態に応じた支援策の検討
・全庁的に情報共有し協力体制の構築

→　**高校の魅力や優れた取り組み、在校生（高校）の満足度が十分に中学生や市民に周知できていないこと、短期的な対策として令和３年度においては７月下旬から８月上旬に実施するオープンハイスクール(※)までの働きかけが重要であることを確認し、速やかにできる活動を展開した。**

（※）オープンハイスクール　鳳鳴　7/30(金).31(土)　産業　8/4(水).5(木)　東雲　8/4(水)

(2) 現在までに取り組んだこと

① 各高校においてそれぞれの取り組み

鳳鳴高校では校内に教職員による学校改革推進チームを設置したほか、学校の魅力発信やオープンハイスクールの内容に生徒の意見を取り入れた。産業高校では学校紹介ビデオを作成した（３校すべて紹介ビデオ有）。また、篠山口駅自由通路に３高校を紹介するポスターの掲示を予定している（調整中）。

② 中高連携事業　高校の中学校訪問

市内３高校が中学校を訪問し、３年生を対象に学校紹介を行うとともにオープンハイスクールへの参加を呼びかけた（先輩のメッセージを含む動画などにより高校の雰囲気を伝えた）。

6/28～7/2　市内５中学を順次訪問。

説明会のほか、中学生からの質問を受け付け、後日回答した。

中学校の反応
・説明会は好評、先輩のメッセージなどで高校の雰囲気がよく伝わった。
・高校の説明を聴きオープンハイスクールに行くきっかけになった。
・高校側の熱意が伝わった。　など

③ 市の取り組み（庁内様々な部署との連携により実施中）

- ②を市で主催するなど「丹波篠山の高校へ行こう 2022」として支援策を検討・実施している。
- 広報丹波篠山で特集記事（８月号）、表紙（７月、８月号）に掲載した。
- 広報８月号特集記事を別刷りし、中学３年生や中学校、高校に配布した。
- 市内の中学生の進学者増につながる協議を継続する。

３．今後の活動について

(1) 短期的活動

高　校　：　「ＨＰ等による情報発信を充実」、「進路選択の参考となる高校卒業後の進路や高校生活の詳細情報を中学校へ届ける」、「オープンハイスクールの内容充実」、「中学２年生への働きかけ」　など

中学校　：　「オープンハイスクールに行くことを進める」、「高校のＨＰを見て調べることを中学生に進める」　など

市　　：　進学者増につながる高校独自の活動を支援する

(2) 中長期的活動

① 中高連携事業

次年度の中高連携事業は年内に連絡会において協議し決定する。

② 市単独での支援策検討

駅から遠い、校舎が古いなど環境面の課題への対応のうち、市単独で実施できる可能性があるものは関係部署と調整をしつつ支援策を検討する（通学支援バスなど）。

高校を身近に感じられる活動について検討する（小学生の頃から高校を認識する活動など）。

③ 高校の魅力アップの期待

市としての支援策の検討、中学校との連携等は継続して行うが、高校による魅力アップにつながる活動（啓発・周知含む）が重要な要素と考えるため、今後も効果を上げるための協議を継続する。

特集①

丹波篠山の高校へ行こう

－市内３高校の魅力や特色－

市内には、「篠山鳳鳴高等学校」「篠山産業高等学校」「篠山東雲高等学校」の３つの県立高校があります。それぞれの学校が特色をもち、生徒たちは夢の実現に向かって充実した高校生活を送っています。

しかし、少子化が進む中、中学校の生徒数は減少し、市内３校への進学率も減少しています。

そのような中、中学生に市内の３高校に目を向けていただこうと、高校・中学校が協議を行い、市教育委員会が“丹波篠山の高校へ行こう”と銘打って、取り組みを進めています。

今月号では、その取り組みの内容や、市内３高校の魅力や特色を紹介します。

市内の3高校にはそれぞれ特色のある独自の教育目標を掲げ、進学や就職と生徒の夢の実現に向けて、市外の高校に負けない充実した指導体制を採られています。

しかし、少子化の影響で生徒数が減少する中、市内3校への進学率も54・5％（令和2年度）と年々減少。市内高校における入学者数が募集定員を大幅に割り込む事態が発生しています。

そこで、市教育委員会では、市内で安心して高等学校教育が受けられる環境を守るため、高校・中学校と協議し、「丹波篠山の高校へ行こう2022」キャンペーンを実施。6月28日から7月2日まで、市内3高校の先生が、中学生たちに高校の実態や高校生活の様子を紹介しました。

7月下旬からはオープンハイスクールがあります。今後も、高校・中学校・市・市教育委員会が連携し、アイデアを出し合いながら、市内3高校への関心を高めていきたいと考えています。

問い合わせ　学校教育課
☎552-5653

大学や短大などへの高い進学率を誇る

篠山鳳鳴高等学校

篠山鳳鳴高等学校

細見伸広（ほそみ のぶひろ）校長
生徒数　391人
住　所　大熊369
☎552-0047

動画をCHECK

オープンハイスクールのお知らせ
7月30日(金)・31日(土)

篠山鳳鳴高校には、「普通コース」と、難関国公立大学などをめざす「総合科学コース」の2コースがあります。「普通コース」「総合科学コース」ともに2年生から文系と理系に分かれ、希望の進路に対応した授業を行います。生徒たち自らの努力や先生方の熱心なサポートにより、毎年約9割以上の生徒が大学や短大などに進学。高い進学率を誇っています。

さらなる学力向上に生かすために、2019年から、兵庫県の高大接続改革推進事業（学力向上モデル校事業）の指定を受け、神戸大学や関西学院大学と連携。ICTを活用し、他の高校とリモートで交流を行い、これからの人材に求められる論理的思考力や問題解決の学力を育てる取り組みを行っています。

また、米国・シアトルでの研修や、タイ王国との交流を積極的に進め、グローバルな視点で思考し行動する人材の育成をめざしています。

今年度から学校改革に取り組んでいる同校。学校改革チームを立ち上げ、広報・ICT・行事検討グループをつくり、篠山鳳鳴高校の魅力アップに取り組んでいます。

あいでよ！わが校へ

在校生が語る鳳鳴高校の魅力

進学した理由は？

・大学により進学しやすい環境で勉強がしたいと思ったとき、鳳鳴高校に総合科学コースがあるのを知り、家からも近いので選びました。

鳳鳴高校で何ができますか

・ICT機器が充実しています。プロジェクターをはじめ、Surface（サーフェス）やChromebook（クロムブック）などがあり、実際に授業で使っているものもあるので、ICT機器に携わる機会は増えると思います。

鳳鳴高校の魅力は？

・市内の高校の中で、いちばん部活動の種類が多い学校です。いろいろな選択肢があり、高校生になってから新たに始めてみることができるので、とても魅力的だと思います。軟式野球部やかるた部など、全国レベルの成績を残す部活動もあります。

・私たちは生徒会に所属していましたが、文化祭の開催を1日開催から2日間開催にできないか話を進めました。生徒会で高校の行事に携わり、変えていけるところ、自分たちでつくっていけるところが魅力だと思います。

3年普通科　濵本竜之介（はまもと りゅうのすけ）さん（左）
3年普通科　四辻龍平（よつじ りゅうへい）さん

3年総合科学コース　月森公貴（つきもり こうき）さん（左）
3年総合科学コース　新家実玖（しんけ みく）さん

高い専門性、地域の発展に貢献

篠山産業高等学校

篠山産業高等学校

大久保隆校長
生徒数　419人
住　所　郡家403-1
☎552-1194

動画をCHECK

オープンハイスクールのお知らせ
8月4日(水)・5日(木)

篠山産業高校は、「スペシャリスト」と「地域を担う人財」を育むことを教育目標としています。ものづくりに必要な専門知識と技術を学ぶ「機械工学科」、地域のインフラを支える人材を育成する「電気建設工学科」、ビジネスに必要な知識や技術を学ぶ「総合ビジネス科」、農業と食物について学ぶ「農と食科」の4つの学科で構成された第2学区唯一の産業高校です。

実習を中心とした体験型の授業で生徒のやる気を引き出し、高校生活で学んだことを活用して、持続可能な地域の発展に貢献しようと取り組まれている同校。地域の子どもたちのおもちゃを修理する「おもちゃドクター」をはじめ、農場で栽培した花や野菜、ブドウなどの「農産物の販売」、子育て施設への木工作品の寄贈を行うなど、地域との交流も盛んに行われています。

ほかにも、平和や国際的な連携を実践する「ユネスコスクール」の指定を受け、海外の学校との交流を通じた学び合いを推進しています。

おいでよ！わが校へ

在校生が語る産業高校の魅力

進学した理由は？

・オープンハイスクールでいろいろな体験ができたことや、多くの資格が取得できることを聞き、この学校なら3年間楽しそうだと思いました。

産業高校で何ができますか

・1、2年時は専門的なことを学びます。3年生になると課題研究の授業があり、1、2年生で身に付けた知識や技術を生かして、自分の決めたテーマで研究することができます。

産業高校の魅力は？

・普通科の高校では学べない、機械や電気のことなど、その分野の専門的な知識や技術を学ぶことができます。

・資格取得のために補習なども行われ、先生たちが親身に相談に乗ってくれるのがうれしいです。手厚いサポートで、検定に合格できたときの達成感は自分の自信につながります。

3年食と農科　中野凛音さん(左)
3年総合ビジネス科　谷垣凪紗さん

2年電気建設工学科　井口亮河さん(左)
3年総合ビジネス科　田中萌さん

未来の農業を担う人材育成

篠山東雲高等学校

篠山東雲高等学校

岸部健司（きしべけんじ）校長
生徒数　73人
住　所　福住1260
☎557-0039

動画をCHECK

オープンハイスクールのお知らせ
8月4日(水)

篠山東雲高校は、農業に特化したカリキュラムで、農業に関するさまざまな研究や実験を行いながら学ぶ、実践教育に優れた学校です。

2年生からは、未来の農業を担うスペシャリストの育成のため、「アグリサービス」(草花・飼育)をはじめ、「アグリプロダクト」(作物・野菜)や、「フードインスティテュート」(食品加工・研究)の3つの類型に分かれ、それぞれ専門的に学んでいます。中でも、生徒たちが栽培・収穫した酒米を地元の酒造会社と連携して清酒づくりに取り組んだ「日本酒プロジェクト」は、他の高校ではなかなか経験できない貴重な教育活動です。

また、農業高校には第2の生徒会組織ともいうべき「農業クラブ」があります。主な活動は、日ごろの活動成果を発表する「農業鑑定競技」や「意見発表競技」「プロジェクト発表競技」などの各種大会への出場。校内予選→県大会→近畿大会を勝ち抜くと全国大会に出場でき、同校では、毎年優秀な成績を収めています。

おいでよ！わが校へ

在校生が語る東雲高校の魅力

進学した理由は？

・専門性が高く、幅広い分野で農業を学べることから選択しました。

・将来、好きな農業をするために、農業に力を入れている東雲しかないと思いました。

東雲高校で何ができますか

・研究発表が多く、自分で課題を見つけて研究ができます。昨年の研究として、「トマトの甘味をどうすれば増すことができるか」「特産品を使ったスイーツづくり」などがあります。

東雲高校の魅力は？

・同級生同士、先輩後輩、みんな仲が良く、昼休みには、先輩と後輩が一緒にご飯を食べています。生徒と先生の距離もすごく近く、何でも相談することができます。

・農業系の大学に進学する場合、大学で学ぶことをすでに高校で習っていて、すぐに研究が始められます。農業系の大学に行く場合はおすすめです。

2年アグリプロダクト類型
野垣音哉（のがきおとや）さん

2年アグリプロダクト類型
森田一志（もりたいし）さん